

子どものこころの診療センター

1. スタッフ

センター長（兼）教授 大菌 恵一
副センター長（兼）教授 2名
准教授（兼）3名、講師（兼）1名、助教（兼）2名、
医員2名

2. 診療内容

昨今の報告では、日常生活や学校の場面で何らかの支援を必要とする自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害などの「発達障害」は6.5%と推計されている。実際に日常生活に困難を抱え、当センターを受診される人は増加している。小児科領域だけでなく、成人期においても発達障害による適応障害やうつ病などの二次障害が注目されている。当センターでは、小児科と精神科が共同して、子ども・青年・成人までの幅広い年代に対して、発達障害に起因する諸症状に対する評価・診断・指導・治療を行っている。

小児領域（15歳以下）：自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、学習障害などの発達障害の診断と治療を行っている。発達障害は多様であり、必要な治療や支援は個々で異なる。そのため、診断だけでなく、どのような特性をもっているかの評価が重要である。全般的な発達評価のほか、自閉症診断の国際基準である自閉症診断観察評定(ADOS)、自閉症診断面談改訂版(ADI-R)、実行機能評価を行っている。

発達障害は学習困難から不適応を生じ、不登校や問題行動に繋がることが多い。これらの不適応状態の原因を検討するために、学習障害の評価も行い、どのような困難を抱えているのかを明らかにし、支援につなげている。さらに、脳画像検査にて基礎疾患の鑑別と症状に対応する脳機能の同定を行っている。

評価・診断の後、客観的根拠を提示しながら子どもの特性について養育者に説明し、関わり方の指導、学校等との連携を行っている。必要に応じて投薬治療も行なっている。

また、希望者には、心理士によるペアレント・トレーニング、親子の心理カウンセリング、子どもへのソーシャルスキルトレーニング、応用行動分析(ABA)による療育指導などを、自費診療で行っている。

また、発達障害児は高頻度で睡眠障害を合併する。睡眠治療で症状が改善するケースもあるため、睡眠障害の治療も必要に応じて行なっている。

精神科領域：精神科領域では、自閉スペクトラム症を中心とした発達障害の診断と治療、並びに発達障害に伴う二次障害や、また、症状からの鑑別が困難であるトラウマ関連障害の診断と治療を合わせて行っている。

当人のおかれている状況を把握するために、本人、養育者の両者からまず現在の困難を丁寧に聴取している。また、全般的な認知面の評価を行うために、WISC-IV、WAIS-IVを行っている。発達障害の不適応に関連が示唆されてきた感覚特性を感覚プロファイル(AASP)を中心に評価し、トラウマ体験の有無や、解離の有無を見落とさずに検討するために、初診時に全員にUCLA、IES-R、DESを中心にトラウマ、解離症状、並びに睡眠障害への評価を行っている。さらには、二次障害と思われる精神症状が、一過性の精神症状や反応ではなく精神病圏である場合は、より早期の薬剤治療を含む介入を必要とするため、必要に応じて、ロールシャッハテストなどの心理検査を施行している。評価、診断後は結果を患者本人と家族に説明し、共有するとともに、今後の学校生活、並びに就職を含めた社会への適応に対する支援を継続して行っている。

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

小児科			
	月曜	午後	初診
	水曜	午前・午後	再診
	金曜	午前	再診
精神科			
	金曜	午前	午後

検査

小児科： K式発達検査、WISC-IV、K-ABC、バウムテスト、人物描画検査、ADOS、ADI-R、実行機能評価、Vineland 適応行動尺度、sensory profile、読み書きスクリーニングテスト、フロスティグ視知覚検査、M-ABC、視線計測、頭部MRI、脳波検査

精神科： WAIS-IV、WISC-IV、AQ、ASRS、PARS、ロールシャッハテスト、バウムテスト、SCT、MMSE、ADAS、SP、AASP、PF-study、ADOS、ADI-R、PDS、UCLA 心的外傷後ストレス障害インデックス、IES-R、DES

4. 診療実績(平成31年4月～令和2年3月)

(1) 外来診療

小児発達障害外来の待機が長期化したために一旦受け入れを中止した。令和2年6月から地域医療福祉ネットワークを通じた完全予約制で予約受付を再開している。できるだけ円滑に初診の受け入れができるよう、逆紹介について地域と連携を図っていく。

小児科	初診患者数 197名、パッケージ入院 4名
精神科	初診患者数 105名、入院患者数 8名

(2) 入院治療

小児科 自閉症パッケージ入院精査指導プログラム：

小児では外来では頭部 MRI 検査をはじめとする医学的検査及び、ADOS、ADI-R などの自閉症精密評価検査、視線計測、学習障害の評価、及びそれらに基づいた療育指導を連続で行うパッケージ入院を行なっている。

精神科での入院治療：

外来診療では難しい、摂食障害など身体管理を必要とする病態への精神科的介入や、環境調整した上での薬物調整、並びに症状評価のための入院を行っている。入院時は、頭部 MRI などの医学的検査や、各種認知検査、並びに UCLA 心的外傷後ストレス障害インデックス、IES-R などの自記式検査を用いて、病状の評価を行っている。その上で、本人、家族への指導を行い、必要時にはケースワーカーに介入を依頼し、退院後の環境調整を行っている。